

吉野川橋ものがたり 第6回 善入寺島の潜水橋



学島橋 (記事中の写真6点 提供/徳島県県土整備部高規格道路課)



日本最大の川中島に架かる6本の潜水橋は 吉野川中流を代表する景観のひとつです

潜水橋とは、「沈下橋」「潜り橋」とも呼ばれ、増水時には水没するように造られた橋です。流木などが引つ掛かつて橋に負担がかからないように、欄干がないのが特徴です。長大橋を架けるのが経済的にも技術的にも大変だった時代、数多くの潜水橋が架けられました。

吉野川にも、石井町(上板町)を結ぶ高瀬橋、脇町と舞中島を結ぶ脇町橋など、いくつもの潜水橋が架かっていますが、善入寺島にはなんと6本もの潜水橋が残っています。

善入寺島は吉野川中流にある、広さ約500haの日本最大の川中島です。大正4年(1915)に吉野川の第一期改修により遊水池として全島買収されるまで、約500戸、3千人が住んでいました。現在は無人島ですが、広大な肥沃な農地はダイコン、ニンジンなどの一大産地となっています。



川島橋

善入寺島の自然ととけこんで、季節ごとに違った風情を見せてくれる川島橋。朝夕は通勤や通学に利用する人も多い



島への通行は、昔は「大野島渡し」や「川島渡し」など多くの渡し利用されました。現在のコンクリートの潜水橋が架けられたのは昭和27(1952)年です。大野島橋、川島橋、千田橋、学島橋、香美橋、そして今は土砂に埋もれた状態ですが、学北橋の計6本が、県道として活躍しています。大水のたびに通行止めになるので不便はありますが、流域の人には無くてはならない「生活橋」。特に、大野島橋から善入寺島を経て川島橋を渡るルートは、四国遍路第10番札所切幡寺から第11番札所藤井寺へ向かう空海の道として、お遍路さんに人気です。

菜の花、ヒマワリ、コスモスなど季節の花が咲き誇る善入寺島へ、潜水橋を渡って行ってみませんか。



楽しさと危険が隣り合わせの 河川の安全を守る仕事に日々邁進

国土交通省 四国地方整備局 徳島河川国道事務所 流域治水課 **宮武 大徳**さん(24歳)

ところだと思います。吉野川に限らず、河川周辺は、自然やアウトドア体験やイベントが多く開催される場所の一つであり、楽しい空間です。しかし、洪水等により水が氾濫したときは危険な場所になります。

私が現在取り組んでいる仕事は、吉野川上流の堤防整備が未了である地区の堤防整備についての計画や、過去に発生した台風や大雨などの災害から、どれほどの規模の水害によって吉野川が氾濫し、流域がどの範囲まで浸水するのかを想定し、その結果から「多段階浸水想定図」や「水害リスクマップ」などを作成し、被害を見える化する事業です。

吉野川は先に述べたような魅力がある反面、「四国三郎」と呼ばれる日本三大暴れ川という側面を持ち、水害から命を守るために昔から多くの対策が実施されています。今私が関わっている事業も、水害対策において重要な事業の一つであるという自覚を持ち、日々取り組んでいます。

皆さんも、川に遊びに行く際には、ネットなどで公開されているリスクマップや周辺の天気を確認し、安全への配慮についても欠かさず、川と親しんでほしいと思います。

私は現在、徳島河川国道事務所 流域治水課で吉野川の整備にかかわる仕事をしています。私は徳島出身ではありませんが、子供のころから河川敷で虫取りやスポーツ、釣りをしたりして、川と親しみながら育ちました。その経験から、河川周辺の災害対策や、河川敷の自然や広い土地を活かして人々が楽しめる場所を整備する仕事がしたいと思うようになりました。

私の初めての職場となった吉野川の魅力と言え、上流では、急峻な地形を活用した「ラブティング」、下流では広大な川幅や河川敷を活かしたイベントなどが開催されており、多種多様な方法で楽しみ、且つ人々との交流の場がある場所として多くの人に親しまれている